

2011年

6月28日(火曜日) これからも人に寄り添う医療を - 市立弥栄病院・久美浜病院 懇話会 -

本日、初めて、「市立弥栄病院・久美浜病院 懇話会」が両病院の幹部の皆さんにお集まりいただき、開催することができました。平素から、安原院長先生、赤木院長先生をはじめ両市立病院の医師の皆さん、看護師の皆さん、各技師の皆さん、職員はじめ関係者の皆さんには、地域の多様な医療ニーズにしっかりと応えいただき、昼夜を分かたず、献身してご尽力をいただいておりますこと、住民を代表して、心から感謝を申し上げる次第です。

また、東日本大震災では、多数の被災された方々に心からお見舞いと哀悼の誠を捧げますとともに、被災者の方々、被災地の一日も早い復旧、復興を心からお祈りするばかりですが、本市としても様々な支援に尽くさせていただく中で、両病院からも、久美浜病院からは瀬尾診療部長と田儀内科医長が、弥栄病院からは谷口看護師が、それぞれ被災地で本当に尊い医療支援にご尽力をいただき、この点からも心から感謝を申し上げるものです。

多数の被災された方々が今でも避難所等で寄り添い助け合ってお暮らしされているお姿を報道等を通じてお見受けさせていただくにつけて、改めて私たちにとっても最低限大切なことだと思えますのは、やはり地域における人と人との絆であります。

このことが大切なのは、医療の分野でも同じではないかと感じています。人・患者さんを中心に据えた医療、人・患者さんとお医者さんをはじめ医療スタッフとの絆、人・患者さんの生活の現場における保健と医療と福祉の連携とこれらの間の絆など、このような人や人の生活に寄り添う医療の形が、地域の医療においてはますます大切になってきていると実感しています。

そして、このことを大切に実践していただいているのが、弥栄病院であり、久美浜病院であるわけで、住民の健康と安心を包括的に支える地域包括医療や救急医療などの点で全国的にも注目をいただくなど、関係者の皆さんの患者さんを想う真摯なご努力の積み重ねに心より敬意を申し上げます。

同時に、全国の他の地方部とほぼ同様、医師確保を巡りまだまだ厳しい状況にある中で、経営的にも、病院関係者一丸となって、経営の本格改善を目指す改革プランの内容を着実に実現し、両病院とも予定より早く黒字化を達成していただくなど、素晴らしいご尽力とご実績に心から賛辞と感謝を呈します。

今後とも、両市立病院が、人・患者さん中心で、また、地域に根ざす共通の展望とお志を共有の土俵にされて、相互にますます連携を進めていただき、それぞれの個性を活かした素晴らしい病院づくりを発展していただけますよう、今日の懇話会がそこにます

ます向かっていく有意義な弾みになりますことを心から期待するものですし、行政としても京都府、京都府立医大、京大など関係大学、民間病院、医師会はじめ関係者の皆さんのお力もいただき、全身全霊でバックアップさせていただく所存です。いつも本当にありがとうございます。